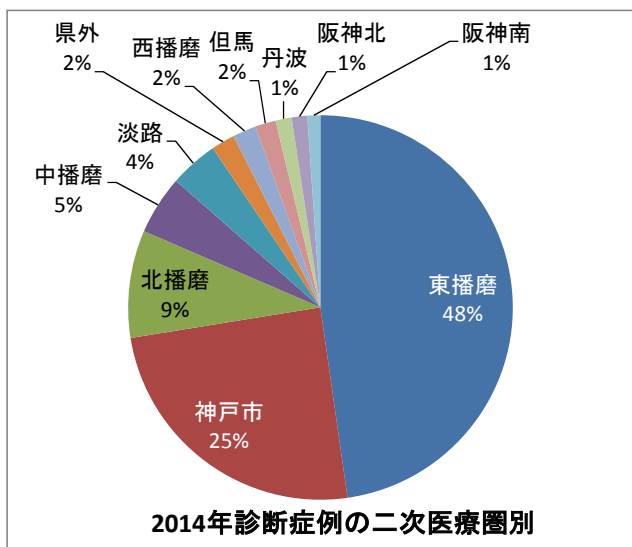
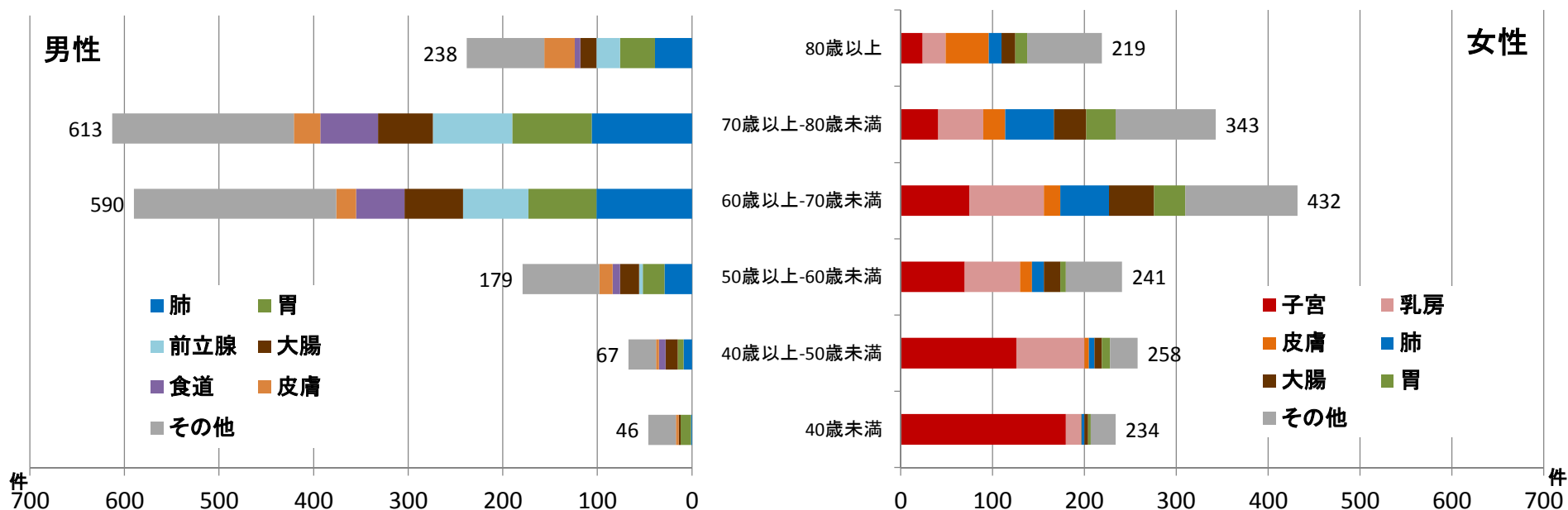


兵庫県立がんセンター

1. 2014年診断症例の年齢別院内がん登録内訳(上位6部位)件数



【参考】2014年院内がん登録数3,460件(全国13位/国指定拠点421病院中)

★当センター腫瘍ランキング

1. 肺癌424件(全国16位)
2. 子宮頸癌381件(全国2位)
3. 胃癌325件(全国28位)

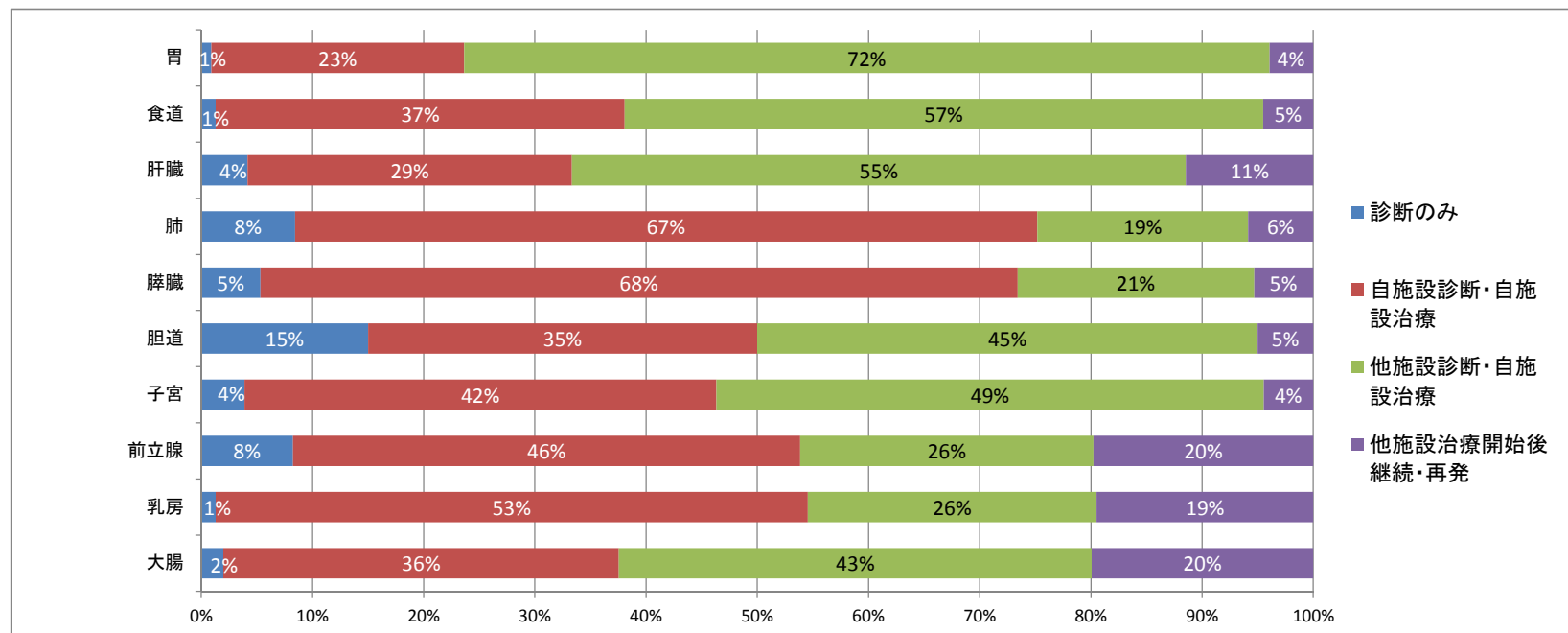
★全国ランキング上位の腫瘍

1. 全国2位(子宮頸癌381件・子宮体癌136件)
2. 全国4位(卵巣癌73件・皮膚癌203件)
3. 全国14位(膀胱104件)

《2014年診断症例の特徴》

1. 当院は、兵庫県の都道府県がん診療連携拠点病院(がん専門病院)として東播磨や神戸医療圏を中心に多くのがん診断・高度専門治療を行っています。2014年のがん登録集計総数は、3,460件で登録数が多い部位は、子宮517件、肺424件、胃325件、乳房306件、大腸297件となっています。性別年齢別でみると、男性の60～70歳台で肺・胃・前立腺がんが多くなっています。女性は、子宮がん(上皮内腫瘍含む)が50歳未満に多く、また乳がんは、40～80歳と幅広い年齢に多い。男女ともに皮膚がんは80歳以上に多くなっています。当院では、皮膚・婦人科がん(子宮頸・子宮体・卵巣)は、全国でも上位の登録数を誇っています。

2. 2014年診断症例区分別の診断・治療割合(10部位のがん表示)



《2014年診断症例の特徴》

2. どこではじめて診断され治療を受けたかを割合でまとめると、「他施設で診断後、当院で治療を受けた症例(緑表示)」は、胃・食道・肝臓がんが多くなっています。これは、当院ではチーム医療として様々な治療法の組み合わせが可能であること、適切な術後管理が行える体制が整っていること等が紹介理由になっています。

また「当院で診断と治療を受けた症例(赤表示)」では、肺、膵臓がんが多い結果となっています。その理由のひとつとして、画像所見だけでなく、より詳細な組織診断が可能であることがあげられます。例えば肺がんでは気管支鏡生検での診断が多く、また膵臓がんにおいては、内視鏡的逆行性胆管膵管造影検査(ERCP)ならびに超音波内視鏡(EUS)により詳細な診断ができる体制が整っています。2014年症例のうち超音波内視鏡生検(EUS-FNA)で診断された方は、膵臓がん患者の71%を占めています。県内では膵臓がんを診断・治療する中心的な役割を担っています。

「他施設で治療後に継続治療・再発(紫表示)」症例の中では、前立腺・乳房・大腸がんが多く治療を受けています。